中学生の運動参加を予測する小学校体育授業における動機づけの検討

小竹森　俊紀（滋賀大学）

１．目的

本研究の目的は、中学生を対象にした質問紙調査を行い、彼らの運動参加を小学校時代の体育授業における動機づけから予測し、運動に参加する要因の因果関係を明らかにすることである。

２．研究方法

１）対象者：学校長の承諾を得られた 10 校の中学校の生徒のうち、有効回答として得られた１、２年生 3237 名（男子 1641 名、女子 1596 名）を対象とした。

２）調査項目：基本属性・小学校体育授業経験尺度・運動参加動機尺度の３つの尺度をもとに質問紙調査を行った。

３）分析方法：質問項目の分析として因子分析を行った。因子分析によって因子構造の妥当性が検討された後、得点平均における男女比較には独立したサンプルの t 検定を、所属タイミングでの比較には一元配置分散分析実施後に多重比較（Tukey の HSD 法）を用いた。また、それらの因子を潜在変数として、潜在変数間の影響関係を検討するための構造方程式モデリングを行った。

３．結果と考察

１）小学校体育授業経験尺度

因子分析の結果、「教師の支援」「体育の楽しさ」「運動が得意な人の楽しさ」「授業での対話・思考場面」に分けられた。「授業での対話・思考場面」では、部活動に「無所属」と「中学校から」の間に有意差が認められ、「中学校から」「無所属」の順で平均得点が高い値を示していた。これは、授業での対話・思考場面を多く設定することが運動参加に有効であるということを示唆し、言語活動や思考活動を多く取り入れていくことがその後の運動参加に繋がる可能性が高い。

２）運動参加動機尺度

因子分析の結果、「スポーツの魅力」「体育授業による内発的動機づけ」「順応性」「関係性」に分けられた。

３）構造式モデリング

小学校体育授業経験尺度の「体育の楽しさ」と、運動参加動機尺度の「スポーツの魅力」は「体育授業による内発的動機づけ」に影響を及ぼすと示唆された。このことは、小学校の体育授業での楽しさが、その後の運動参加の動機に結びついたこと、またはその経験がスポーツの魅力に気づくきっかけとなり、その魅力が運動参加に繋がったことを示唆している。

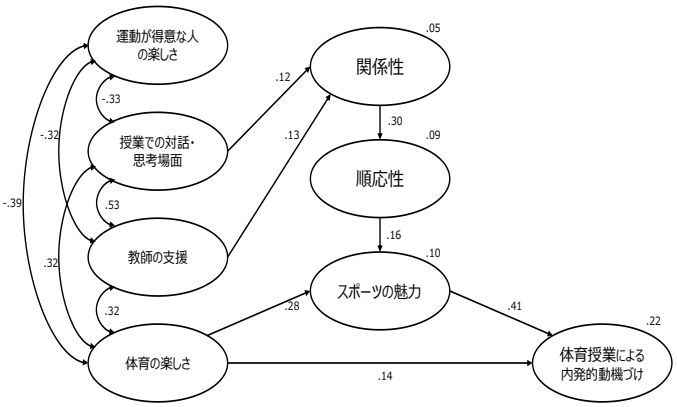

図　構造式モデリングの結果

４．結論

中学生の積極的な運動参加を促すためには、体育が楽しいと感じられるような授業を目指さなくてはいけない。そして、上達する喜びを感じることやもっとうまくなりたいという気持ちを育ませることが、体育授業による内発的動機づけからの積極的な運動参加に繋がると考えられる。

５．主な参考文献

１）藤田勉・杉原隆（2007）大学生の運動参加を予測する高校体育授業における内発的動機づけ，体育学研究，52（１），pp.19-28